

授業科目	* 生活援助技術論演習				単位	3		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11205J		
開講年次	1 年	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-2			
担当教員	隅田 由加里、小田 日出子、金山 正子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>人間の基本的な生活行動が、疾病や障害によって自分で行うことができない、もしくはスムーズには行えなくなった時に、その生活行動を、対象者の安全・安楽、自立の視点で看護援助できるよう、科学的根拠および理論的枠組みを踏まえて、必要な基礎的な知識を深める。そしてこの基本的知識を踏まえ、援助の技術習得に努める。授業は看護技術項目(活動・休息、清潔・衣行為、食事、感染予防、排泄)別に行う。</p> <p>実務家教員として、20 年以上にわたり大学病院において、様々な生活援助技術を様々な状況にある患者に提供してきた経験をもつ。生活援助技術は患者の自立度等によって変化する看護技術であることを念頭におき、まずは講義によって、基礎的知識(目的、根拠、留意点等)を深める。その後、臨床現場で実際に使用されている器具等を用いて、演習記録を軸に「実践する」「書く」「話す」「披露する」という演習を通して、基本的技術の習得を目指すとともに、具体的な事例を提示し教授することで、提供する看護技術の違いにも気づけるようにする。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>【知識・理解】</p> <p>1. 健康的な日常生活行動を促進する看護援助に必要な基礎的知識と基本的技術を修得することができる。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>1. 日常生活援助について、科学的根拠に基づき、安全・安楽、自立の視点から、必要な基本的技術を思考・判断することができる。</p> <p>【態度】</p> <p>1. グループ活動として行う毎回の演習課題に、積極的に取り組むことができる。</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	0	0	0	10	30	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	60					25	85	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)					10		10	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)						5	5	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>【知識・理解】</p> <p>1. 健康的な日常生活行動を促進する看護援助に必要な基礎的知識(意義、目的、適応、禁忌、留意点、方法、観察項目)を論理的に記述することができる。</p> <p>2. 日常生活に関する援助における、基本的技術が安全・安楽、</p>				<p>【知識・理解】</p> <p>1. 健康的な日常生活行動を促進する看護援助に必要な基礎的知識(意義、目的、適応、禁忌、留意点、方法、観察項目)を説明することができる。</p> <p>2. 日常生活に関する援助における、基本的技術が安全・安楽</p>				

<p>自立を考慮して実践できる。 【思考・判断】 1. 日常生活援助について、科学的根拠に基づき、安全・安楽、自立の視点から、必要な基本的技術を選択することができる。 【態度】 1. グループ活動として行う毎回の演習課題に、積極的に取り組むことができる。</p>	<p>を考慮して実践できる。 【思考・判断】 1. 日常生活援助について、科学的根拠に基づき、安全・安楽、自立の視点から、必要な基本的技術を考えることができる。 【態度】 1. グループ活動として行う毎回の演習課題に取り組むことができる。</p>			
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>生活援助技術論演習ガイダンス 【活動・運動を支援する技術①】 * 以下を3コマで実施する (講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員) 講義: ・活動に関する基礎知識 ・ボディメカニクスの原理 ・車椅子、ストレッチャー 操作方法 演習: ・起き上がりの援助技術の実施 ・車椅子への移乗と移送の実施(屋内) ・ベッドからストレッチャーへの移乗と移送の実施</p>	<p>・授業進行表を用いてオリエンテーションを実施する。 ・講義: テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習: 学生2~4名1組で演習記録を基に演習を行う。車椅子・ストレッチャーでの移送は、屋内の廊下や実習室内の障害物等を避けながら安全な移送を考える。ストレッチャーも車椅子も交替で患者役を体験する。</p>	<p>【予習】 1. 教科書の該当箇所を読み、基礎知識を「自己学習ノート」にまとめる。 2. 普段の人間の動きを観察する 【復習】 1. 演習記録の課題に取り組む。2. 生活援助技術で学ぶ知識と技術への理解を深め、学習内容の積み重ねと効果的な活用につなげるため、今後に役立つ「ポートフォリオノート」を作成する。 3. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 4. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p>	【予習・復習】90分
2	<p>【活動・運動を支援する技術②】 * 以下を3コマで実施する (講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員) 講義: ・活動に関する基礎知識 ・ボディメカニクスの原理 演習: ・ボディメカニクスを用いた水平移動、体位変換の実践・車椅子への移乗と移送の実施(屋外) ・ストレッチャーへの移乗と移送の実施</p>	<p>・講義: テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習: 学生2~4名1組で演習記録を基に演習を行う。屋外の坂やスロープ、段差を利用して車椅子移送を実施する。体位変換は「側臥位⇔仰臥位」を基本に、ボディメカニクスを活用して実施する。</p>	<p>【予習】 1. 動画視聴 2. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。 【復習】 1. 演習記録の課題に取り組む、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p>	【予習・復習】90分
3	<p>【休息・睡眠を促す技術】 * 以下を1コマで実施する (講義: 隅田由加里) 講義: ・休息・睡眠に関する基礎知識</p>	<p>講義: テキストとスライドを使用し説明を行う。</p>	<p>【予習】 1. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。 【復習】 1. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。</p>	【予習・復習】60分
4	<p>【身体の清潔を援助する技術①】 * 以下を2コマで実施する (講義: 小田日出子 / 演習: 小田日出子、隅田由加里、看護学科教員)</p>	<p>・講義: テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習: 学生2~4</p>	<p>【予習】 1. 動画視聴 2. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめ</p>	【予習・復習】90分

	<p>講義： ・清潔・衣生活に関する基礎知識</p> <p>演習： ・清拭への準備演習(ウォッシュクロスの巻き方、顔の清拭、寝衣交換)</p>	<p>名1組で、ウォッシュクロスの使用方 法、顔の清拭を演 習する。</p>	<p>る。</p> <p>【復習】</p> <p>1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p>	
5	<p>【身体の清潔を援助する技術②】</p> <p>* 以下を3コマで実施する (講義：小田日出子／演習：小田日出子、隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義： ・清潔・衣生活に関する基礎知識</p> <p>演習： ・全身清拭(寝衣交換含む) ・足浴の援助技術</p>	<p>・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習：学生2～4名1組で演習記録に基づいて行う。* Aクラスは全身清拭を実施する。 *Bクラスは足浴を実施する。</p>	<p>【予習】</p> <p>1. 動画視聴 2. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。</p> <p>【復習】</p> <p>1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p>	【予習・復習】90分
6	<p>【身体の清潔を援助する技術③】</p> <p>* 以下を2コマで実施する (講義：小田日出子／演習：小田日出子、隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義： ・清潔・衣生活に関する基礎知識</p> <p>演習： ・全身清拭(寝衣交換含む) ・足浴の援助技術</p>	<p>・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習：学生2～4名1組で演習記録に基づいて行う。* Bクラスは全身清拭を実施する。 *Aクラスは足浴を実施する。</p>	<p>【予習】</p> <p>1. 動画視聴 2. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。</p> <p>【復習】</p> <p>1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p>	【予習・復習】90分
7	<p>【身体の清潔を援助する技術④】</p> <p>* 以下を3コマで実施する (講義：小田日出子／演習：小田日出子、隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義： ・清潔・衣生活に関する基礎知識</p> <p>演習： ・洗髪の援助技術(洗髪台、ケリーパッド)</p>	<p>・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習：学生2～4名1組で「洗髪台での洗髪」「ケリーパッドを使用したの臥床患者への洗髪」を演習記録に基づいて行う。</p>	<p>【予習】</p> <p>1. 動画視聴 2. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。</p> <p>【復習】</p> <p>1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p>	【予習・復習】90分
8	<p>【食事・栄養摂取を促す技術①】</p> <p>* 以下を3コマで実施する (講義：小田日出子／演習：小田日出子、隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義： ・食事と口腔ケアに関する基礎知識</p> <p>演習：</p>	<p>・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習： 学生2名一組で、「ベッドギャッジアップによる両上肢を</p>	<p>【予習】</p> <p>1. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。 2. 形態機能学の復習：消化器系、栄養と代謝、咀嚼と嚥下</p>	【予習・復習】90分

	・食事援助と口腔ケアの実践	骨折した視力障害のある患者の食事援助」と「口腔ケア」を演習記録に基づいて行う。	【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。	
9	【食事・栄養摂取を促す技術②】 * 以下を3コマで実施する (講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員) 講義: ・栄養アセスメントについて ・非経口的栄養摂取に関する基礎知識 演習: ・栄養アセスメント(TSF 測定評価、反復唾液嚥下テスト、BMI 判定など) ・経鼻経管栄養法の実施	・講義: テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習: 学生2~4名1組で、「栄養アセスメント」「経鼻経管栄養法」を演習記録に基づいて行う。	【予習】 1. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。 2. 形態系能楽の復習: 栄養、皮膚 【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。	【予習・復習】90分
10	【食事・栄養摂取を促す技術③】 * 以下を3コマで実施する (講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員) 講義: ・褥瘡予防 演習: ・褥瘡予防の実際(体圧分散マットの使用と除圧)	・講義: テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習: 学生2~4名1組で、「体圧分散マット」と「非体圧分散マット」の実際の体圧を測定する。また背抜き、足ぬきやポジショニングを実施し、褥瘡予防を演習記録に基づいて行う。	【予習】 1. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。 2. 形態機能学の復習: 皮膚、筋骨格系 【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。	【予習・復習】90分
11	【感染予防を推進する技術】 * 以下を2コマで実施する (講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員) 講義: ・無菌操作に関する基礎知識(洗浄・消毒・滅菌)を含む 演習: ・滅菌手袋の装着 ・撮子を使用した無菌操作 ・滅菌器材の取り扱い方	・講義: テキストとスライドを使用し説明を行う ・演習: 学生2~4名1組で、「滅菌手袋の装着」「無菌操作」を演習記録に基づいて行う	【予習】 1. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。 3. 感染と免疫の復習: 感染の成立 【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。	【予習・復習】90分
12	【排泄を促す技術①】 * 以下を3コマで実施する (講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員) 講義:	・講義: テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習: 学生2~4名1組で、「尿器と	【予習】 1. 動画視聴 2. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。	【予習・復習】90分

	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・床上排泄、ポータブルトイレを使用した排泄 演習： <ul style="list-style-type: none"> ・床上排泄(尿器・便器)の実施 ・ポータブルトイレを使用した排泄の実施 	便器を使用した床上排泄「ポータブルトイレを使用したベッドサイド排泄」を演習記録に基づいて行う。	3. 形態機能学の復習：泌尿器系、消化器系 【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。	
13	排泄を促す技術②】 * 以下を3コマで実施する (講義：隅田由加里／演習：隅田由加里、看護学科教員) 講義： <ul style="list-style-type: none"> ・浣腸、おむつ交換、陰部洗浄に関する基礎知識 演習： <ul style="list-style-type: none"> ・グリセリン浣腸の援助技術 ・おむつ交換と陰部洗浄 	・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習：学生2～4名1組で、「グリセリン浣腸」「ベッド上でのおむつ交換と陰部洗浄」を演習記録に基づいて行う	【予習】 1. 動画視聴 2. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。 【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。	【予習・復習】90分
14	【排泄を促す技術③】 * 以下を3コマで実施する (講義：隅田由加里／演習：隅田由加里、看護学科教員) 講義： <ul style="list-style-type: none"> ・導尿に関する基礎知識 演習： <ul style="list-style-type: none"> ・一時的導尿の実施(女性) ・持続的導尿の実施(男性) 	・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習：学生2～4名1組で演習記録を基に演習を行う。 Aクラスは一時的導尿、Bクラスは持続的導尿を演習記録に基づいて行う。	【予習】 1. 動画視聴 2. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。 【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。	【予習・復習】90分
15	【排泄を促す技術④】 * 以下を2コマで実施する (講義：隅田由加里／演習：隅田由加里、看護学科教員) 演習： <ul style="list-style-type: none"> ・一時的導尿の実施(女性) ・持続的導尿の実施(男性) 	・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習：学生2～4名1組で演習記録を基に演習を行う。 Bクラスは一時的導尿、Aクラスは持続的導尿を演習記録に基づいて行う。	【予習】 1. 動画視聴 2. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる。 【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。	【予習・復習】90分
16	生活援助技術論演習：実技試験 * 以下を3コマで実施する (基礎看護学担当教員全員：隅田、小田、金山、看護学科教員) 1つの技術に対する習熟度を確認する。	事前に配布、説明した実技試験の「実施要領」に則り、科目履修者全員を対象に1つの診療関連技術の実	【事前の「自主練習」の進め方】 1. 実技試験の実施要領、患者状況設定、評価表、演習記録等を参考に、自主練習に関する諸注意を理解した上で、	可能な限り自主練習時間を確保し技術の習熟を図

		技試験を実施する	積極的・自主的に練習に取り組む。 2. 必要に応じて自ら積極的に教員に助言を求める。 【実技試験終了後の課題】 1. 技術評価表により実施した技術を自己評価する。	る【振り返り】20
17	生活援助技術論演習：総合演習 * 以下を3コマで実施する (基礎看護学担当教員全員：隅田、小田、金山、看護学科教員) ひとつの事例課題を、グループメンバー全員で取り組み、発表、意見交換を通して、安全・安楽・自立の視点から、必要な基本的生活援助技術の理解を深める。	演習：患者事例を3～4事例準備し、各グループ1事例を選択する。その後限られた時間の中で、演習記録に基づいて、担当した事例患者の生活上のニーズを少しでも改善するための、日常生活における援助技術を「実施前」「実施中」「実施後」の視点で考え、発表、意見交換を行う。	【復習】 1. 自身のグループの演習課題の不足箇所を、グループメンバーで協力し事後整理し完成させる。 2. 完成したグループ課題をコピーし、ポートフォリオに追加する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。	【復習】 90分
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	この単元は、患者を生活者としてとらえ、自分でできない日常生活行動(動く、清潔を保つ、食事をとる、排泄をする)を援助する技術を学習します。そのため人体の構造と機能の知識が必要となりますので、形態機能学の復習を行ってください。また自分自身の日常生活行動の生活体験を振り返り、その行為が終了するまでにはどんな感覚を自覚し、どのような行動をとっているのかを考えるとともに、その行動ができない時の気持ちも考えてみてください。
テキスト	・「系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」(医学書院) ・ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全(メディカ出版)

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・新体系 看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護学技術 1・2(メジカルフレンド社) ・ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 (メディカ出版) ・深井喜代子編著:基礎看護技術ビジュアルブック 手順と根拠がよくわかる(照林社) ・深井喜代子監修:ケア技術のエビデンス(1)(2)実践へのフィードバックで活かす(へるす出版) ・大久保陽子編:日常生活行動からみるヘルスアセスメント 看護 形態機能学の枠組みを用いて ・藤本真記子ら監修:看護技術がみえる① 基礎看護技術(メディックメディア) ・佐藤久美ら
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>皆さんは日常生活行動を当たり前に行うことができます。しかし病気になったり障害を持つと、その当たり前の行動が行えなくなります。今まで出来ていたことができなくなるということは、とても悲しくつらいことであるということを理解してください。そのような対象者の方に安全で安楽な援助を提供できるようになるためには、正確な知識と技術の習得が必要です。規定の演習時間には限りがありますので、国家試験問題を学習に取り入れたり、動画視聴でイメージしてから技術演習に参加するなど、効率よく学習してください。また自分の実生活(炊事、洗濯</p>
達成度評価に関するコメント	<p>筆記試験(60%)、ポートフォリオ(10%)、その他(30%)で総合的に評価します。</p> <p>*ポートフォリオは、①初年次セミナーで学んだファイルのまとめ方が活用されているか、②提出期日を遵守したか、③演習記録や自己学習の記載内容の視点で評価します。</p> <p>*「その他」は実技試験(25%)、授業貢献度(5点)で評価します。実技試験は授業の中で課題を提示します。1回目で合格(25%)、再試験合格(15%)、再試験不合格(0%)となります。また授業貢献度は、日々の授業への参加態度、演習後の清掃への参加状況、実技試験に向けた</p>